

本 編

第1部

市の地域概況

第1部では、自然環境や社会環境といった基礎的なデータから、立川市の特性を紹介します。

1 自然環境

(1) 位置・地形

- 立川市は、東京都のほぼ中央、西よりにあって、都心からおおむね40km圏、昭島市、小平市、日野市、国分寺市、国立市、福生市、東大和市、武蔵村山市と接しています。
- 市域の南側には東西に流れる多摩川、北側には武蔵野台地開墾の源となった玉川上水が流れ、多摩川の段丘崖に緑の多い傾斜地をみるほかは、地形的にはほぼ平坦となっています。
- 市域の南部・中央部は業務や商業を中心とした市街地と立川基地の跡地を利用した新しい街によって構成され、北部は都市農地や武蔵野の雑木林など緑豊かな地域を形成しています。

面積：24.36km²

標高：最高 124.7m 西砂町4丁目付近

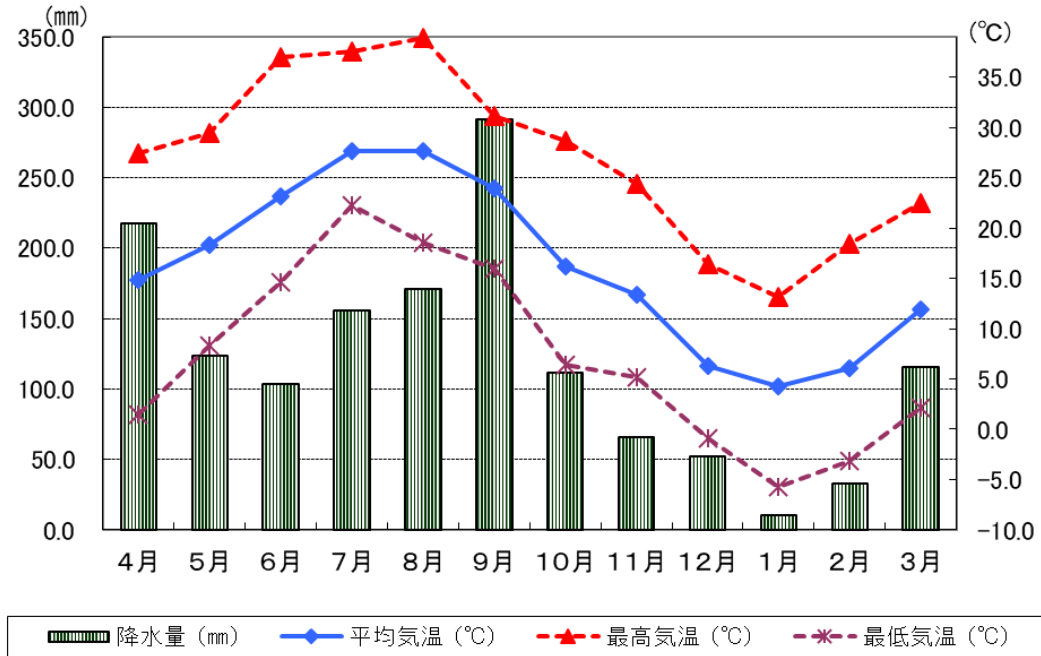
最低 64.9m 錦町6丁目付近



図：立川市の位置 出典：立川市ホームページ

(2) 気候

- 令和4年度の気象観測結果は下記のとおりです。年平均気温は16.1℃、年間降水量は1,449.5mmとなっています。



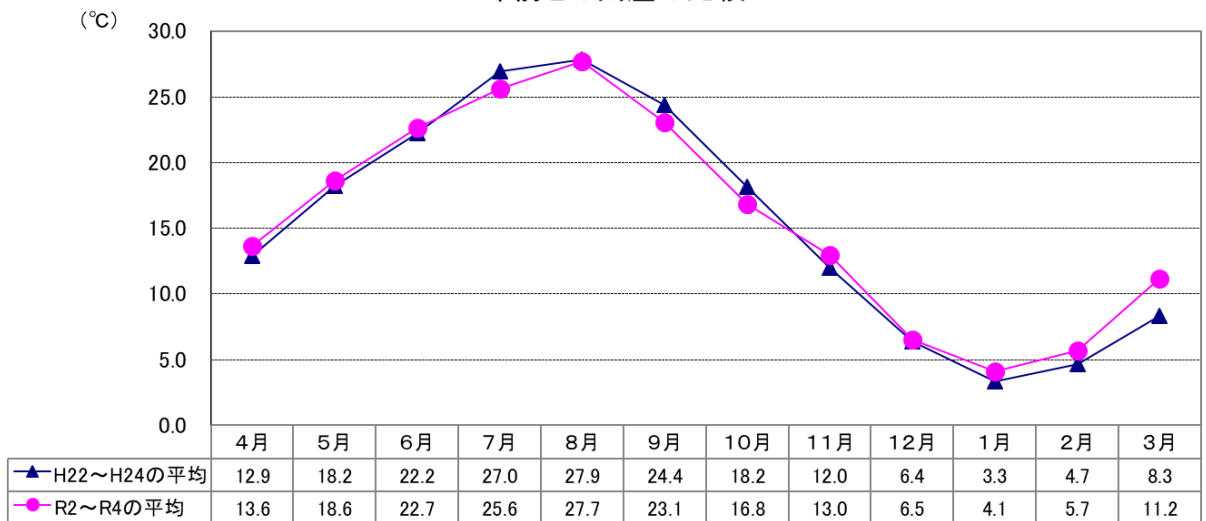
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均気温 (°C)	14.8	18.3	23.2	27.7	27.6	23.9	16.2	13.4	6.3	4.3	6.1	11.9
最高気温 (°C)	27.4	29.4	37.0	37.5	38.9	31.1	28.7	24.4	16.4	13.1	18.4	22.5
最低気温 (°C)	1.5	8.3	14.6	22.2	18.5	16.0	6.4	5.2	-0.9	-5.7	-3.2	2.1
降水量 (mm)	217.5	123.5	103.5	156.0	171.0	291.0	111.5	65.5	52.0	10.0	32.5	115.5

出典：気温—大気汚染測定結果・泉町局データ（東京都環境局）

出典：降水量—過去の気象データ・府中局（気象庁）

- 各月の平均気温を直近3年の平均と10年前の3年の平均とで比較した場合、4～6月、11月～3月に平均気温の上昇が見られます。

10年前との気温の比較

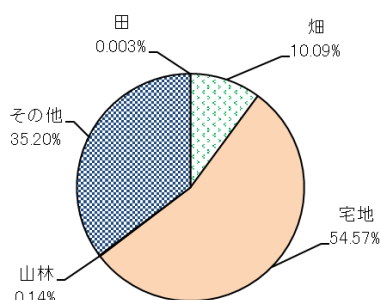


出典：大気汚染測定結果・泉町局データ（東京都環境局）

2 社会環境

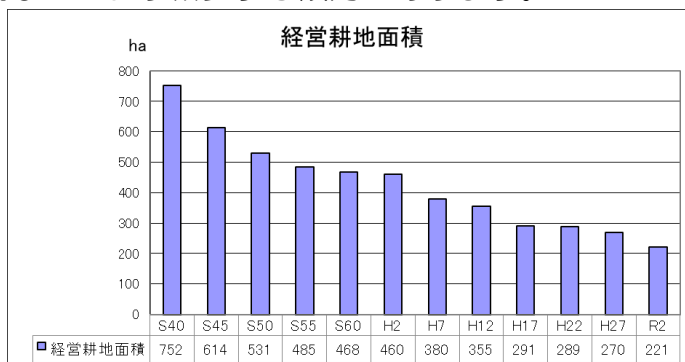
(1) 土地利用

- 令和5年1月1日現在、立川市の総面積 24.36 km²のうち、「宅地」が54.6%と大半を占め、「畑」が10.1%となっています。なお、35.2%を占める「その他」には、国又は地方公共団体が所有する公共用地、学校用地、墓地、公衆用道路及び寺社境内等が含まれます。
- 経営耕地面積は、市街化、相続などにより減少する傾向にあります。



図：土地利用構成比（令和5年1月1日現在）

出典：財務部課税課資料



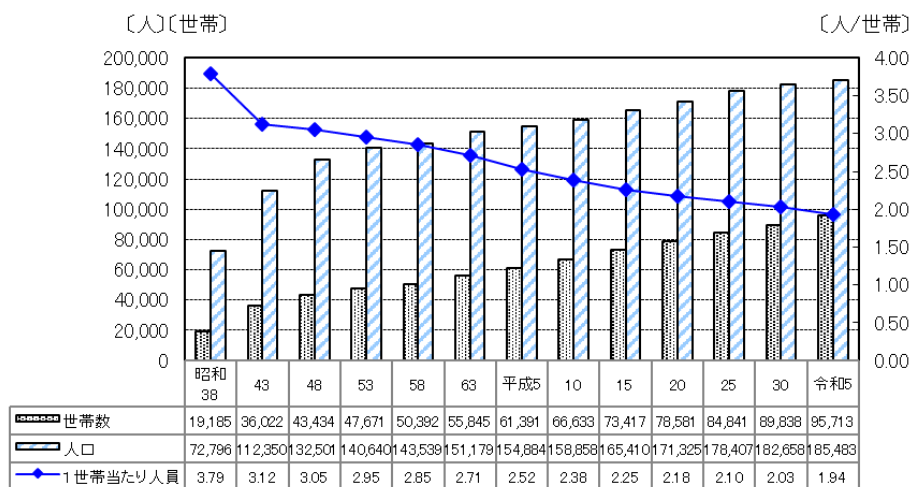
図：経営耕地面積

出典：農林業センサス（農林水産省）

(2) 人口

- 令和5年1月1日現在の人口は185,483人、世帯数は95,713世帯、1世帯当たりの人口は1.94人となっています。
- 推移を見ると、人口、世帯数ともに増加傾向にありますが、人口の増加以上に世帯数が増加したため、1世帯当たりの人口は年々減少し続けており、令和5年の状況を60年前の昭和38年と比較すると半数に近いレベルとなっています。

一般的に、世帯当たりの人口が少ないほど、一人あたりのエネルギーの使用効率は悪くなり、ごみ排出量も増えるため、環境負荷は増大してしまいます。



注1：この表の数値は、住民基本台帳法による各年1月1日現在のものです

注2：昭和38年5月1日に旧砂川町と合併したため、昭和39年以降は合併した数値となっています

図：人口・世帯数の推移

(3) 産業

- 産業別に就業者数を見ると、第3次産業就業者数が最も多く、令和2年の調査では全体の82.3%を占めるまでになっています。業務・商業の集積地としての立川市の特色が、色濃く反映された結果となっています。
- 第3次産業就業者数割合（平成7年 73.8%⇒令和2年 82.3%）の増加に対して、就業者数に占める第1次産業（平成7年 1.1%⇒令和2年 0.9%）、第2次産業（平成7年 25.1%⇒令和2年 16.8%）の割合は、減少しています。

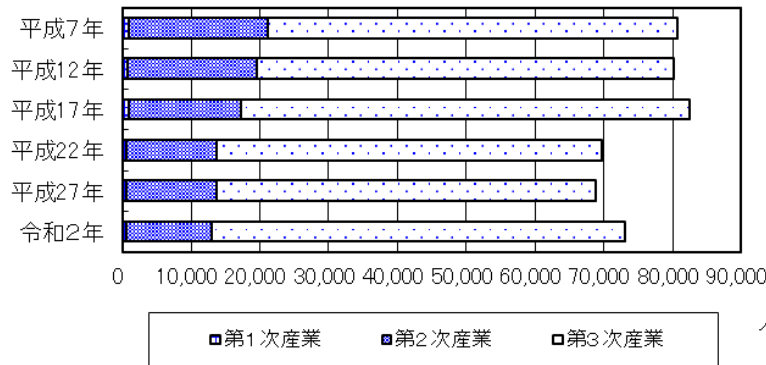
表：産業別就業者数

出典：「国勢調査」

	第1次産業	第2次産業	第3次産業
平成7年	868	20,294	59,570
平成12年	792	18,740	60,609
平成17年	872	16,372	65,264
平成22年	672	13,083	56,040
平成27年	673	12,981	55,127
令和2年	684	12,290	60,127

図：産業別就業者数

出典：「国勢調査」



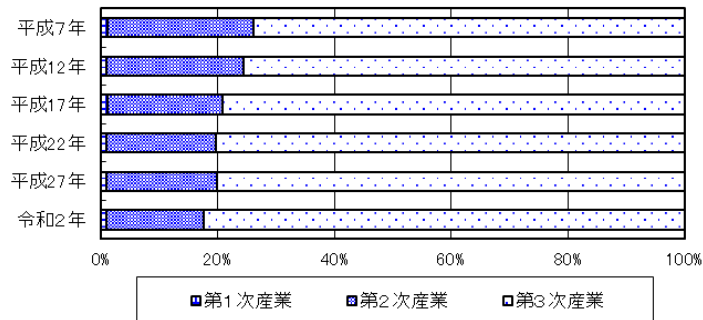
表：産業別就業者数割合

出典：「国勢調査」

	第1次産業	第2次産業	第3次産業
平成7年	1.1	25.1	73.8
平成12年	1.0	23.4	75.6
平成17年	1.1	19.8	79.1
平成22年	1.0	18.7	80.3
平成27年	1.0	18.9	80.1
令和2年	0.9	16.8	82.3

図：産業別就業者数割合

出典：「国勢調査」



※第1次産業：農業、林業、漁業（立川市の場合、ほとんどが農業）
 第2次産業：鉱業、建設業、製造業
 第3次産業：卸売・小売業、サービス業、医療・福祉、情報通信業、公務ほか

(4) 交通

- 立川市域南部に位置する JR 立川駅は、東京都の東西を結ぶ JR 中央線、西多摩地域へと伸びる JR 青梅線・五日市線、立川と川崎を結ぶ JR 南武線という各路線が乗り入れるとともに、南北方向の重要な交通である多摩都市モノレールが通り、多摩地域を結ぶ交通結節点として機能しています。また、バス路線も立川駅周辺を中心に市内各地域や近隣市との間を結んでいます。
- このような交通の要衝としての機能から、近年は多摩地域における業務・商業の集積地として賑わいのある街に発展しつつある一方で、昼間人口の増加によるエネルギー消費量の増大など、環境面への影響も考えられます。
- 北部地域には、拝島から小平を経由して新宿へと延びる西武拝島線が乗り入れ、また玉川上水駅では多摩都市モノレールと接続しており、都心への通勤・通学者などに利用されています。